

分析哲学

2018 年本試

問 6 ウィトゲンシュタインの「言語ゲーム」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 言語は，日常生活の具体的な場面や状況に応じて使用されるが，我々は，他者との会話に参加しながら，適切な使用のルールを次第に身に付ける。その様子は，ゲームになぞらえられる。
- ② 言語は，語彙や文法といったルールのうえに成り立っている点で，ゲームになぞらえられる。そのなかでは，日常的な発話(パロール)が，構造としての言語(ラング)から区別される。
- ③ 言語は，人間の無意識の形成に深く関わっており，我々は成長の過程で，言語活動を通して，他者の欲望を自分自身の欲望としてつくりかえる。その様子は，ゲームになぞらえられる。
- ④ 言語は，語彙や文法といったルールを常につくりかえる点で，ゲームになぞらえられる。そのために，我々の日常的な会話では，語や概念の連関を解体する脱構築が常に行われる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	34	①	3

2018 年追試

問 5 次の文章は、科学をめぐる現代の哲学的考察についての説明である。文章中の ・ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

私たちが言語で表現するもののなかには、科学的命題のように検証可能な命題と、形而上学的命題のように検証不可能な命題とが混ざり合っている。ウィトゲンシュタインは、その混乱の除去を哲学の中心課題と考え、 の末尾で「語り得ないことについては、沈黙しなければならない」と述べたが、論理実証主義者たちはそれを検証不可能で無意味な命題を排除することだと受け止めた。また、 は、科学的命題は検証可能なことに特徴があるのではなく、反証可能な点に特徴があると主張した。そして、科学的にみえる言説であっても、一切の反証を受けつけないような場合には、科学の名には値しないと論じた。

- | | | | | |
|---|---|----------|---|-------|
| ① | a | 『形而上学』 | b | スペンサー |
| ② | a | 『形而上学』 | b | ポパー |
| ③ | a | 『言葉と物』 | b | スペンサー |
| ④ | a | 『言葉と物』 | b | ポパー |
| ⑤ | a | 『論理哲学論考』 | b | スペンサー |
| ⑥ | a | 『論理哲学論考』 | b | ポパー |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	⑥	3

2016 年追試

問 4 次のア～ウは、言葉について思索した思想家たちを説明したものであるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

4

- ア 言葉や概念を用いる際の二項対立図式のうちに、西洋哲学の伝統的な形而上学的傾向を見だし、そのような思考を揺り動かす脱構築を試みた。
- イ 言葉や概念の意味が、行為によって生み出される結果を通じて決定されると主張し、自己の立場をプラグマティズムと命名した。
- ウ 言葉で語り得るか否かという観点から、経験的な自然科学の命題を論理学や倫理の命題などと峻別^{しゅんべつ}し、分析哲学の形成に影響を与えた。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-----|---|------------|
| ① | ア | デリダ | イ | ポパー | ウ | ラカン |
| ② | ア | デリダ | イ | ポパー | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ③ | ア | デリダ | イ | パース | ウ | ラカン |
| ④ | ア | デリダ | イ | パース | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ⑤ | ア | ベンヤミン | イ | ポパー | ウ | ラカン |
| ⑥ | ア | ベンヤミン | イ | ポパー | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ⑦ | ア | ベンヤミン | イ | パース | ウ | ラカン |
| ⑧ | ア | ベンヤミン | イ | パース | ウ | ウイトゲンシュタイン |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	4	④	3

2013 年本試

問 9 次の文章は、言語をめぐるウィトゲンシュタインの思想を説明したものである。□ a □～□ c □に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。□ 9 □

ウィトゲンシュタインは最初、「語り得ぬものについては、沈黙せねばならない」という立場を取っていた。それによれば、□ a □においては命題が真か偽かを確定し得るが、神や道德などの問題に関する哲学や宗教の言語は、現実の事象との対応関係をもっておらず、語り得ぬものを語ろうとすることになってしまう。そして、これまでの哲学的問題の多くは、語り得ぬものを語ろうとしたために生じてきた、というのである。しかし、後に彼は、□ b □における言語の使用や規則の習得について省察を深めていき、新たに□ c □という概念を導入して、言語の問題を捉え直していった。こうした後期のウィトゲンシュタインの思想に従えば、□ a □における言語の使用もまた、□ b □に根差した多様な□ c □の一つである、ということになる。

- ① a 日常生活 b 自然科学 c パラダイム
- ② a 日常生活 b 形而上学 c パラダイム
- ③ a 日常生活 b 形而上学 c 言語ゲーム
- ④ a 自然科学 b 日常生活 c パラダイム
- ⑤ a 自然科学 b 日常生活 c 言語ゲーム
- ⑥ a 自然科学 b 形而上学 c 言語ゲーム
- ⑦ a 形而上学 b 自然科学 c パラダイム
- ⑧ a 形而上学 b 自然科学 c 言語ゲーム
- ⑨ a 形而上学 b 日常生活 c パラダイム

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 9	9	⑤	3

2003 年追試

問 3 ラッセルについての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 戦闘的ヒューマンイズムの立場に立って，世界平和の確立のため，平和の敵と断固闘うことを説き，自らも反ファシズム運動に身を投じた。
- ② 核戦争による人類破滅の危険性を警告する宣言を發し，パグウォッシュ会議を開催するなど，核兵器廃絶運動に精力的に取り組んだ。
- ③ 人間ばかりでなく，あらゆる生物の生命を守り敬うことが善であると唱え，アフリカに渡って医療とキリスト教の伝導に携わった。
- ④ 『戦争と平和』などで知られる文豪であると同時に，キリスト教的隣人愛や非暴力主義を唱え，後のヒューマンイズム運動に大きな影響を与えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	32	②	2